編集後記

本号は原著が２編，記事が１編となっております．原著の数は少ないですが，各々眼科領域，地域保健看護領域からの投稿であり，本大学誌が幅広い領域の先生方に活用いただいていることが分かり，大変喜ばしく思っております．しかしながら，近年では本大学誌への投稿論文数はあまり増加しておりませんので，学内の研究の活発化に伴い，本大学誌の利用と投稿が増えることを希望しております．

学内の研究の活発化を希望する一方で，研究を取り巻く環境を考えてみますと，ここ10年で環境は大きく変化しています．その変化した環境を研究倫理の面から捉え，世間一般的なトピックスを挙げますと，STAP細胞騒動から丸２年が経過したことが挙げられます．もともとデータの捏造，改ざん，盗用，研究費の不正使用などの研究活動の不正行為が時々あり，そのたびに世間を賑わせ，国からの研究に対する規制が年々厳しくなってきていたところにSTAP細胞騒動が生じました．当時の文部科学省の反応は素早く，その年の８月には「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が大臣決定され，特定不正行為への対応がより厳格に定められるようになっただけでなく，研究倫理教育の実施が徹底されることになりました．研究倫理教育に関しましては，本学では全研究者がCITI Japan e-ラーニングプログラムを履修することになっております．このような変化の中，教育活動などで忙しく研究活動を行う時間が減ってきている現状ではありますが，研究を行う際の倫理的概念が薄れることがないよう身を引き締めなくてはならないとあらためて考えています．

最後になりますが，ご投稿いただいた著者の皆様，お忙しい中査読いただいた先生方，編集いただいた編集委員会委員の方々に感謝の意を表します．

明治国際医療大学誌編集委員会
副委員長　林　知也